

御挨拶

国際交流基金

理事長 浅尾新一郎

近年、海外における日本研究及び日本語教育はめざましく発展し、かつ変化してきております。日本研究に関しましては、第一に、各国における日本研究機関及び研究者数の増大が顕著であり、又これまで学部レベルにおける日本研究が中心であった地域においても大学院レベルへ拡充が進みつつあります。第二に、研究分野においては伝統的な文学、歴史、芸術等の人文科学分野に加え、現代日本に対する関心の増加に伴い、政治、経済、社会等社会科学分野への拡がりを見せております。第三に、現在14か国で日本研究学会が設けられているとともに、2つの地域レベルの日本研究学会が組織され、各国及び地域レベルでの研究交流や情報交流が活発に進められております。

他方、日本語教育におきましては、学習者が急激に増加し、当基金日本語国際センターによる最新の調査では、海外の教育機関での日本語学習者数は約162万人にも及んでいることがわかり、また、ラジオやテレビによる学習者を加えると数百万人のも上ると言われております。そして学習目的も、従来の日本研究者となるための学習から、近年は職業上の必要性や日本文化理解のためへと多様化しており、それに伴い従来の大学レベルの日本語学習に加え、中等教育レベルや一般成人の学習者が増加しております。

このように世界各国における日本研究及び日本語教育が多様化している状況を踏まえ、内外の日本研究者が一堂に会して意見交換を行い、研究者相互間の人的交流を深めていただくため、国際交流基金は国際日本文化研究センターとの共催により、初めての全世界規模での「日本研究・京都会議」を開催致しました。5日間の会期中、日本を含む世界44か国から500人を越える参加者を得、66にも上る分科会において充実した議論が行われ、大きな成果を挙げることができましたが、それら議論を通じて改めて日本研究の広がりや深まりとを認識致しました。

本論文集は、「日本研究・京都会議」での研究者の方々の発表を中心に、公開講演会での講演録も含め編集したのですが、この「日本研究・京都会議」の成果を広くご紹介するとともに、日本研究について関心を有する方々の参考にご供するため刊行することとしたものです。本書が、日本研究の発展及び日本理解の促進にお役に立つことを願っております。

最後に、「日本研究・京都会議」をご後援いただきました京都府、京都市、日本文化研究交流財団、東芝国際交流財団、そして会議に参加された内外の研究者の方々及び関係者の皆様に厚く感謝申し上げます。